

# 北川健次

## 略歴

1952年、福井県生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科修了。駒井哲郎に銅版画を学び、棟方志功・池田満寿夫の推挽を得て作家活動を開始。'75年、現代日本美術展ブリヂストン美術館賞受賞。'76年、東京国際版画ビエンナーレ展招待出品（東京国立近代美術館）。'81年、リュブリアナ国際版画ビエンナーレ展招待出品。'85年、井上有一(書)、四谷シモン(人形)、坂茂(建築)等と共に「未来のアダム」展に招待出品（企画／高橋睦郎）。'90年、文化庁派遣芸術家在外研修員として渡欧。

来日したジム・ダインより銅版画作品を、クリストよりオブジェ作品の賞賛を得るなど、銅版画とオブジェの分野における第一人者的存在。

版画、オブジェ、油彩画の他にコラージュ、写真、詩、評論も手がける。鋭い詩的感性と卓越した意匠性を駆使した作品は、美術の分野において独自の位置を占めている。

2008年、ランボーを主題とした作品が、ピカソ、クレー、ミロ、ジャコメッティ、ジム・ダイン、メイプルソープ等と共に選出され、フランスのアルチュール・ランボーミュージアムにて展覧会が開催される。同年、Claude Jeancolas 著による「LE GRAND BLEU D'ARTHUR RIMBAUD」(FVWEDITION 社)に、上記作家等と共に掲載される。'10年、パリ市立歴史図書館にて開催された「RIMBAUD MANIA」展に招待出品。'11年、福井県立美術館に於て約200点の作品からなる大規模な展覧会「北川健次—鏡面のロマネスク」展を開催。'13年、野村喜和夫との詩画集「渦巻カフェあるいは地獄の一時間」を思潮社より刊行。'14年、「絶対のメチエ—名作の条件」展（ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション）に招待出品。

著書には「モナ・リザ ミステリー」（新潮社）、「死のある風景」（久世光彦との共著／新潮社）、写真集「サン・ラザールの着色された夜のために」（沖積舎）他がある。

## パブリックコレクション

国立国際美術館 神奈川県立近代美術館 東京都美術館 埼玉県立近代美術館 栃木県立美術館  
東京都現代美術館 うらわ美術館 福井県立美術館 東広島市立美術館 長野県信濃美術館  
ブリヂストン美術館 和歌山県立近代美術館 高松市美術館 徳島県立近代美術館 広島市現代美術館  
池田満寿夫美術館 大分県立芸術会館 宮崎県立美術館 熊本市現代美術館 渋谷区立松濤美術館  
町田市立国際版画美術館 須坂市版画美術館 アルチュール・ランボーミュージアム（フランス） etc.